

第1特集

プライマリ・ケア 共通テスト

プライマリ・ケアに求められる能力を考えてみよう

この度、「プライマリ・ケア共通テスト」の特集を編纂する運びとなった。このタイトルを聞くと、共通テスト、センター試験、共通1次など大学受験生の頃のさまざまな思い出が蘇るであろう。本企画は、プライマリ・ケアを担う医療職やそれを目指す学生に、受験生の気持ちに戻って問題に取り組み、知識を深めていただきたいという思いで始まった。

テストの範囲は「プライマリ・ケア全般」とし、なるべく網羅的な出題になるように、全国のさまざまな場で活躍する総合診療医に声をかけた。目次をみて「解いてみたくなる出題者」であることがわかるであろう。また、出題者には「診療所や病院におけるプライマリ・ケア診療に関する標準的な問題」に加えて「出題者の得意領域」に関する問題を依頼した。そのため、一部の問題は共通テストのレベルを超えていると感じるかもしれない。

大学受験の共通テストにも「良問」、「悪問」、「易化」、「難化」といった評価があり、受験生の得意不得意や、出題者の熱意が試験の良し悪しや難易度を左右することもあるだろう。試験を解いた後に問題を振り返りながら、友人とあれこれ感想をいうのもテストの醍醐味である。テストを通じて知識の確認などの生涯学習をしていただくだけでなく、「プライマリ・ケアにはどのような能力が求められているのか」について周囲の仲間の方達と考えるきっかけになれば幸いである。

編集幹事

南砺市民病院 内科・総合診療科

大浦 誠